

『街をデザインする』

桑高同窓会長 西羽 晃

桑名市中央公民館主催の「くわな市民大学 総合学科 (特別企画講座)」が2014 (平成26) 年1月19日に行われた。基調講演は伊藤孝紀 (たかのり) 名古屋工業大学大学院准教授。その後、孝紀氏と伊藤徳宇 (なるたか) 桑名市長との対談があった。両伊藤氏はともに多度出身であり、さらに孝紀准教授は桑高1993年卒、徳宇市長は桑高1995年卒と同年配である。桑高卒業の二人が主役の講座であった。

先ず話された孝紀准教授は名古屋市立大学大学院出身で芸術工学の博士号を持つ。芸術工学とは総合的なデザインのこと、例えば和食は食材・器・盛り付け・食卓などを組み合わせたものである。街づくりもこれまでの工業社会から知的重視社会へと変化してきている。そこにはクリエイティブ産業の発達がある。そして街のブランド化がある。街の良さを把握し、キャッチコピーで統一したデザインがブランドとなる。従来街づくりは国家行政型から自治体主導・民間支援型と変遷してきたが、今後は民間主導・自治体支援型になる。街づくりとは「自分の街を自分でブランディングする」ことである。

対談は孝紀准教授が徳宇市長に訊ねる形で進められた。市長は7つの柱を立てているが、

1 今年ブランド元年としている。都市間競争の中で桑名ファンをいかに増やすか。桑名は何を目指すのか、それを的確に表わすキャッチコピーを考えている。行政と民間が一緒になって進めたい。あまり知られていないが、桑名の「蜂蜜」や「そうめん」は東京で評価が高い。また桑名出身活躍している人材

を発掘して、縁のある人のネットワークづくりに取り組む。

2 世界へ向けて発信する。そのために小学校からの英語教育に力を入れる。

3 地理的優位性を活かす。名古屋圏からの日帰り旅行を売り物とする。

長島温泉の客を桑名に取り込む。また長島とは別に桑名ファンを集める。

そのためには歴史的資産の点と点を結ぶ。

4 全員型参加型の行政。多くの人を巻き込んで、行政を動かしていく。

そのために、人が多く集まる機会をつくる。

5 いのちを守ることが最優先。高齢化が全国よりも早く且つ急速に進んでいる。地域医療が重要になってきており、公立病院（桑名市民病院）と民間病院（山本総合病院）が統合されたのは、全国で最初であって、桑名モデルと言われる。

6 世代を超える。子どもを3人育られるように進めている。男性の育児休暇を取りやすくする。市長は第2子が今日明日にも生まれるが、率先して育児休暇をとるつもり。

7 次の世代に責任ある財政を引き継ぐ。これまで計画されてきた事業も市民に本当に役立つのか、税金を使わずに民間で維持運営できないか検討していく。諸戸徳成邸の保存については、文化財としての保存でなく、市民に如何に活用してもらえるかが課題であるし、民間の資金導入がないと保存も難しい。市長として、街づくりの中で経済面を重視したい。持てる資産にどのように付加価値を付けるか、課題である。

熱のこもった話であったが、時間不足・参加者不足が残念であった。